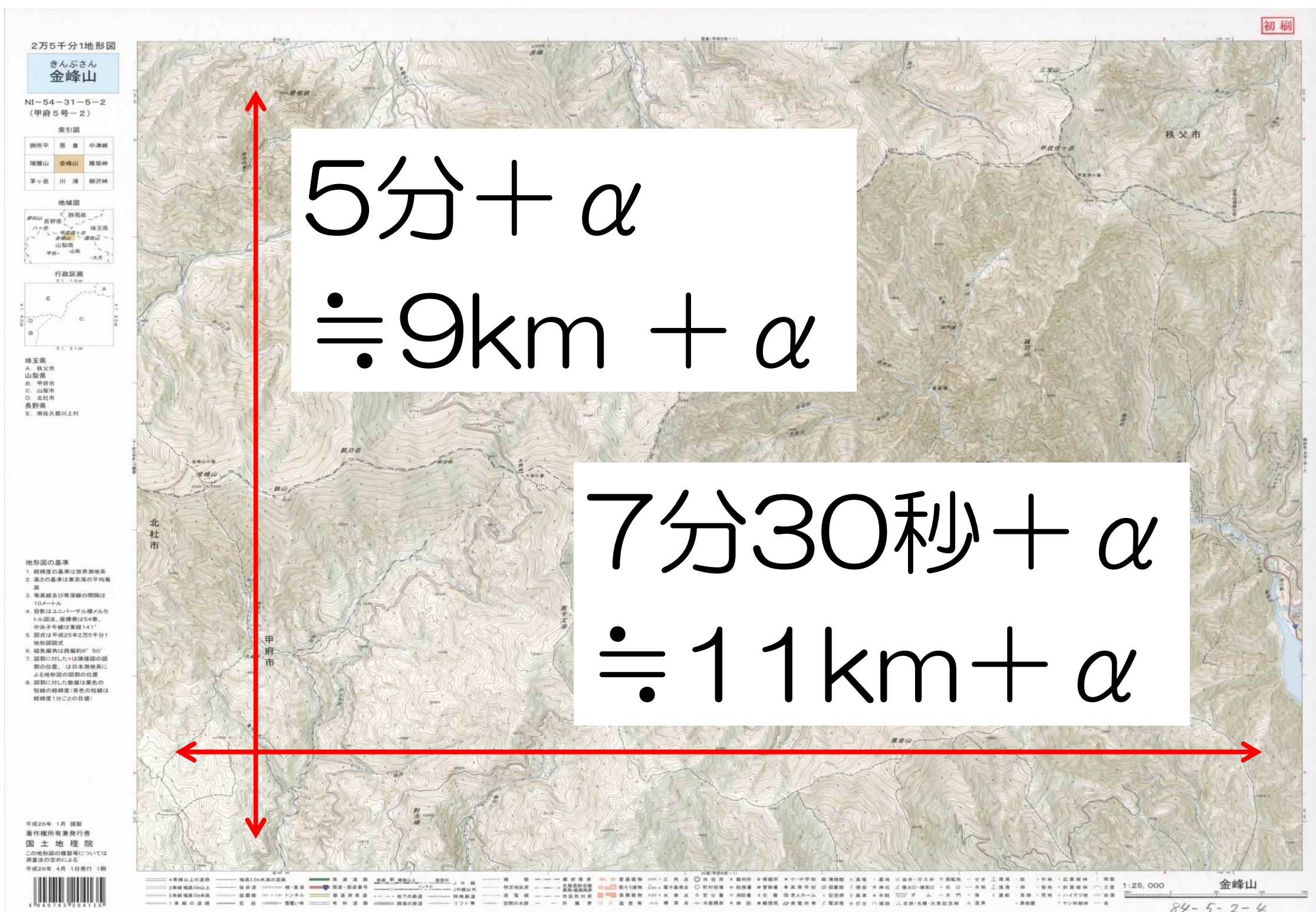


基礎からわかる2万5千分1地形図(2)

○地形図 1 枚に含まれる範囲

- 地形図1枚に表示される範囲は、経度差7分30秒、緯度差5分ごとに区画される区域に、隣図との重複部を合わせた範囲が表示されています。
- 隣図との重複部は、経度方向は緯度帯により重複幅(α)が異なり5秒～1分15秒で緯度方向の重なりは緯度差20秒の範囲です。重複部は沖縄県などは狭く北海道は広くなります。



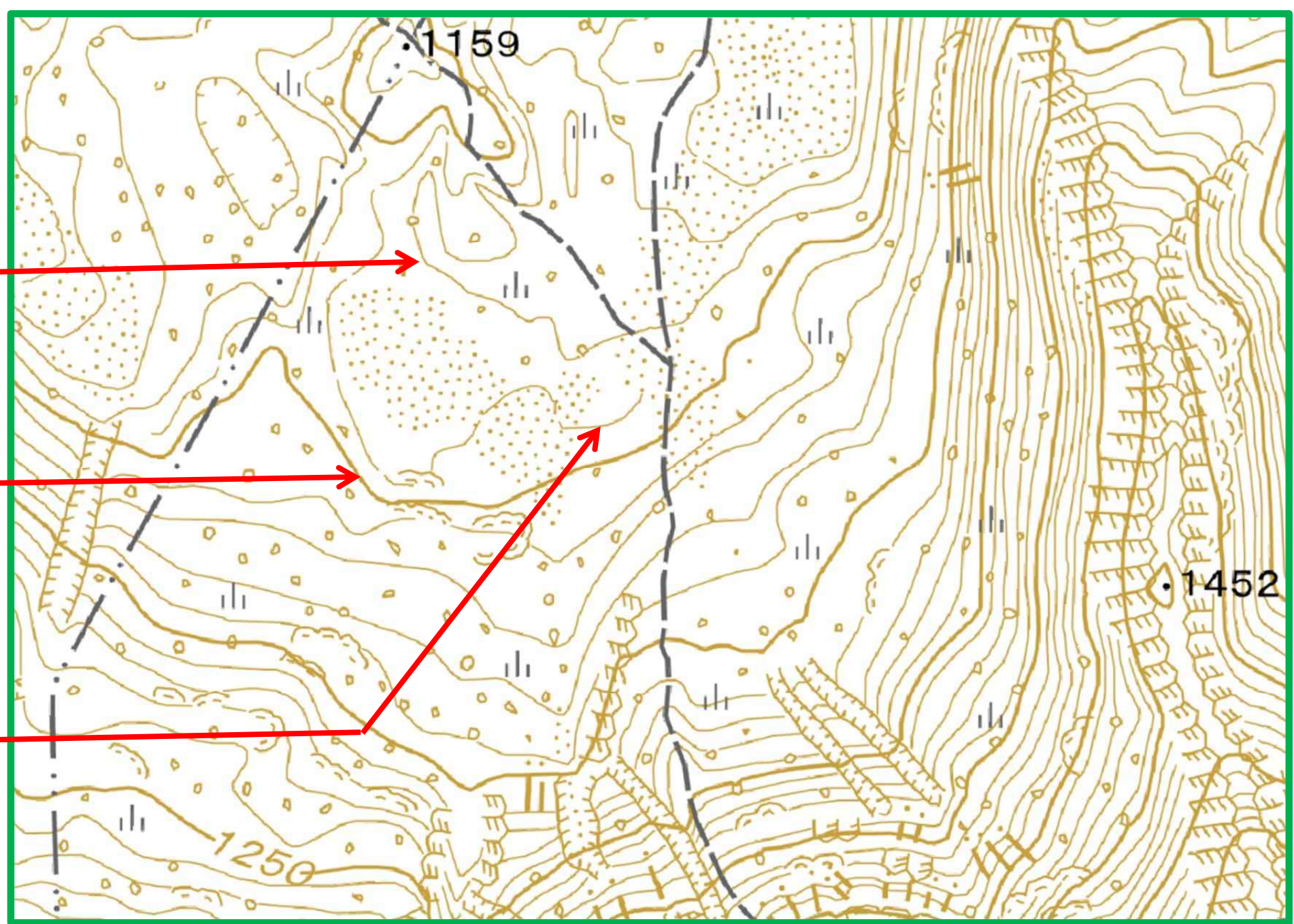
○地形図上の距離と実際の距離

地形図上 縮尺の分母 実際の距離
 $40\text{mm} \times 25,000 = 1,000,000\text{mm} = 1,000\text{m} = 1\text{km}$
(人差し指と中指を広げると約8cmなので、2万5千分1では約2kmです)

○標高（高さ）は等高線で表す

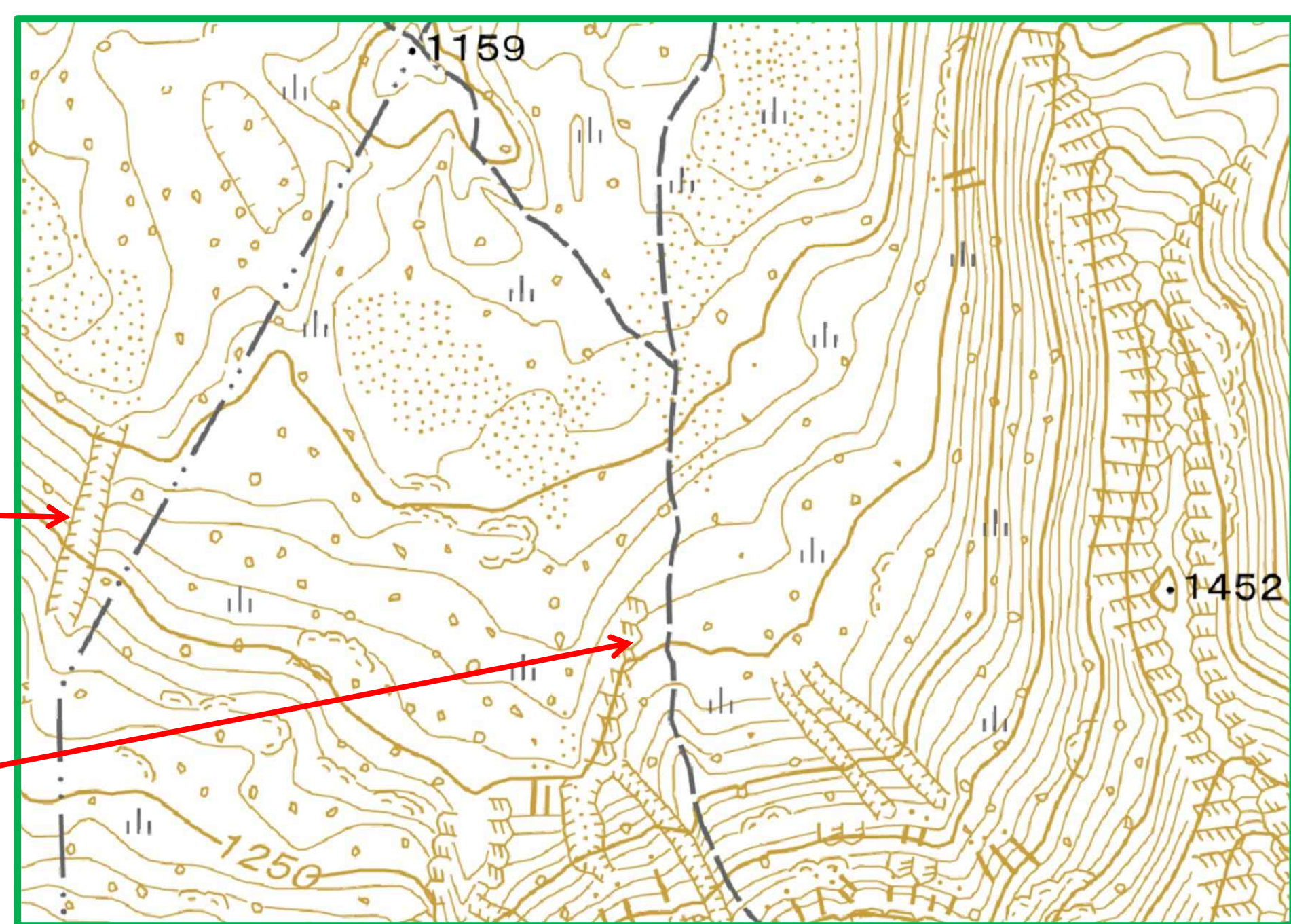
- 地形図で表示している高さは、東京湾の平均海面を0mの基準面としたもので、基準面からの高さを標高と呼びます。
(また、近隣の海面（たとえば大阪湾など）からの高さは海拔とよびます。)
- 同じ標高の場所を結んだ線を等高線といいます。等高線には以下の種類があります。

主曲線 10m間隔
計曲線 50m間隔
補助曲線 5m又は2.5m間隔
(緩やかな傾斜地や複雑な地形がある場所)



- 急斜面は土がけや岩がけの記号を用いて表現しています。

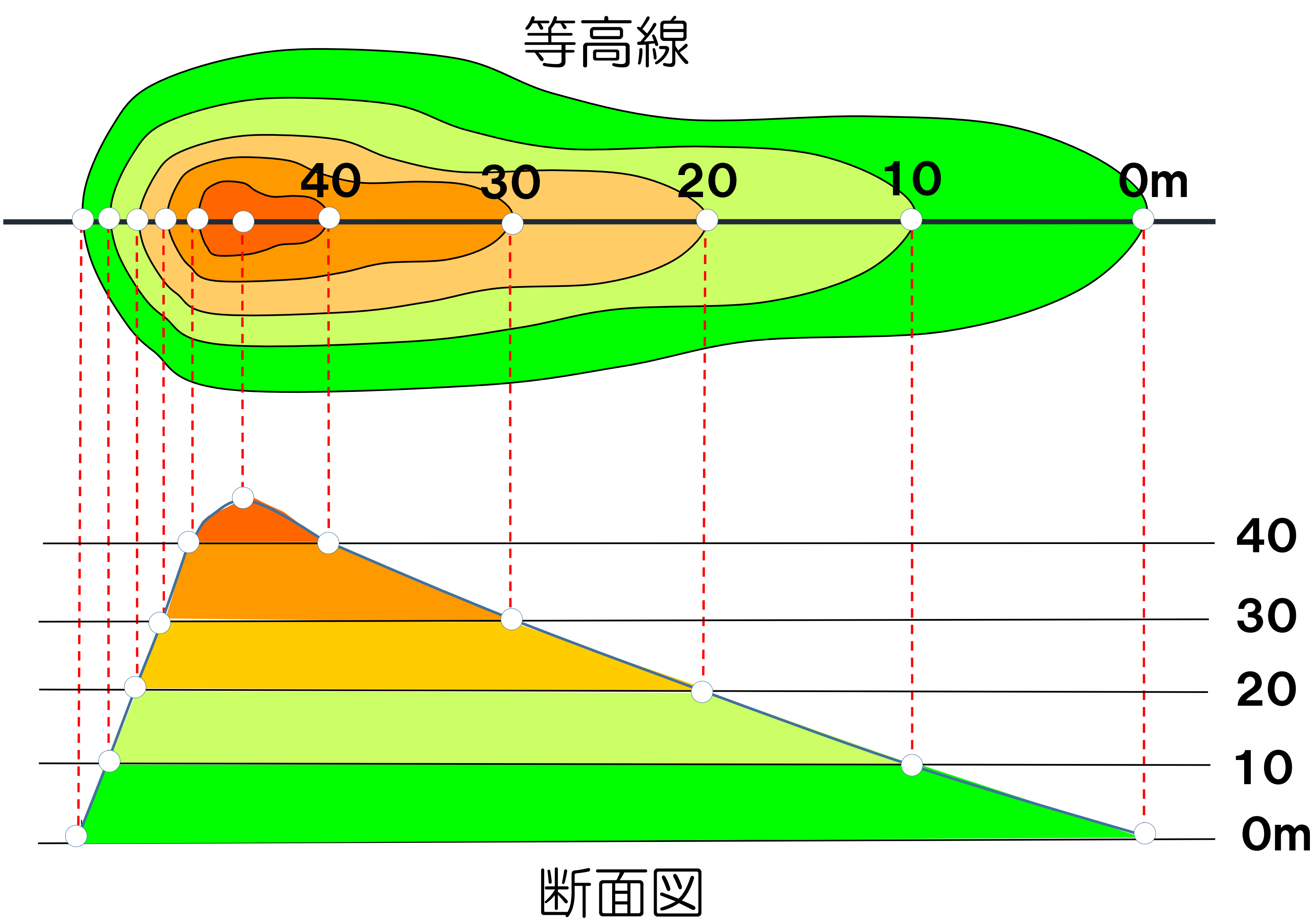
土がけ (土等でできた急斜面)
岩がけ (岩等でできた急斜面)



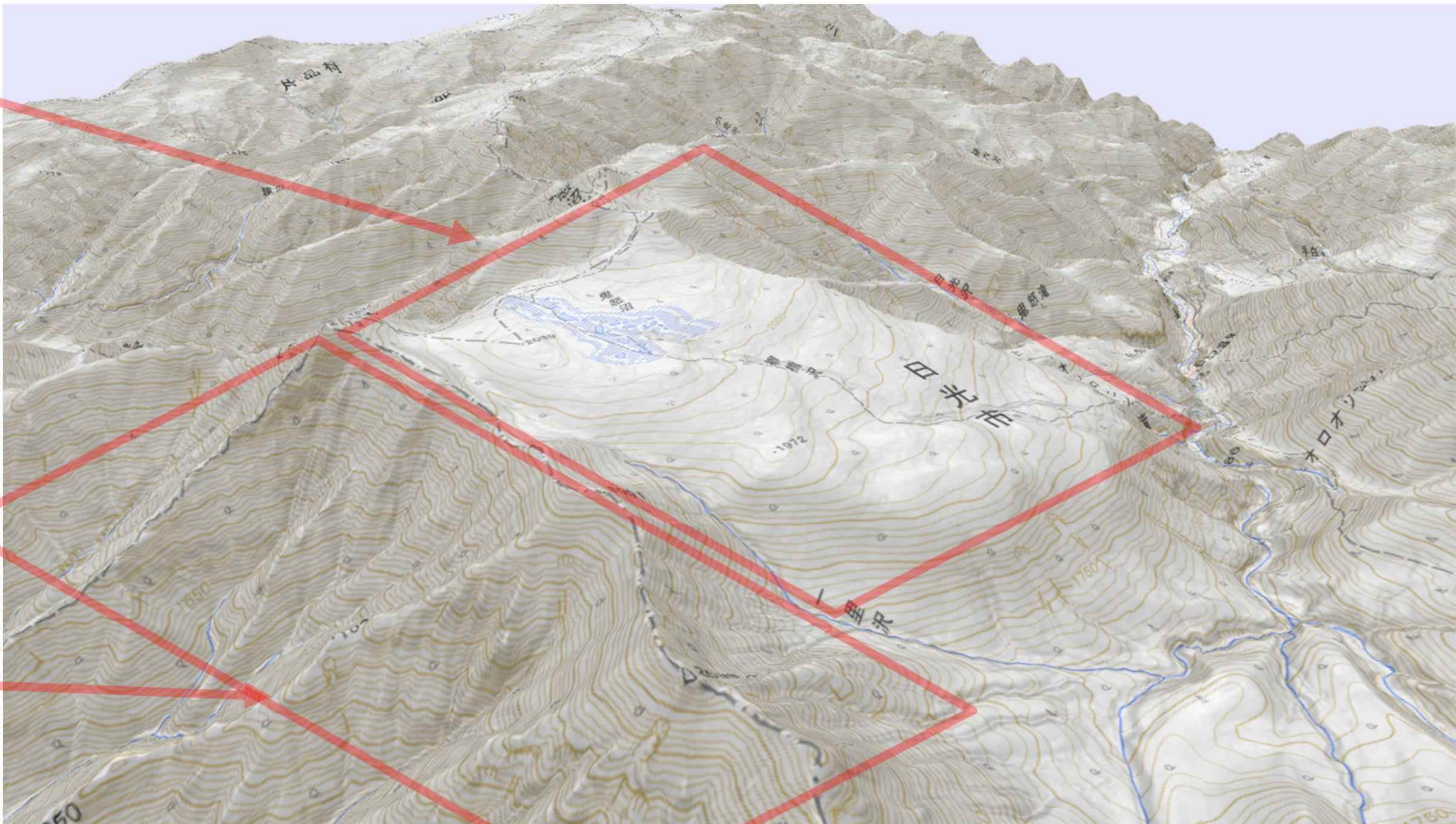
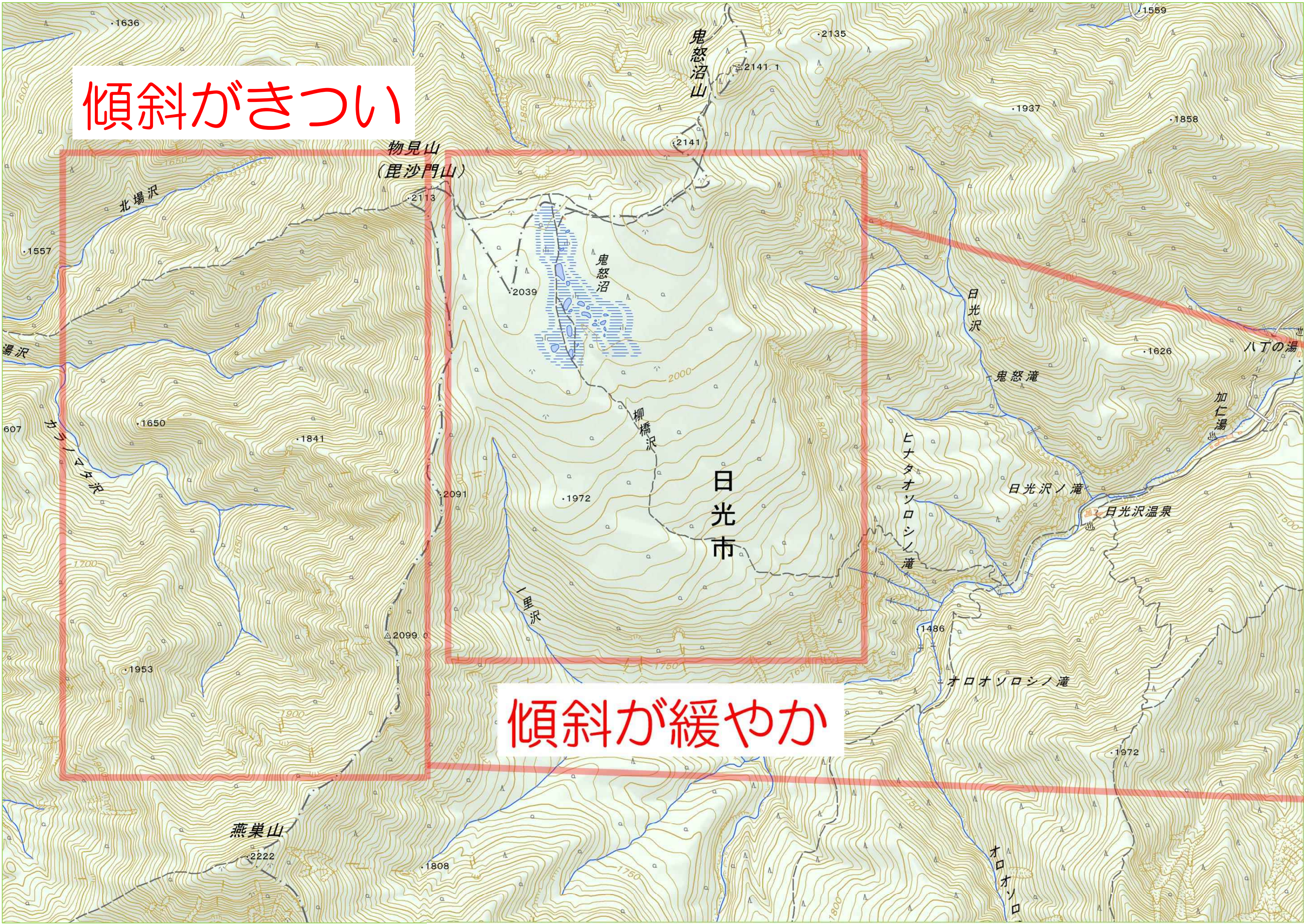
基礎からわかる2万5千分1地形図(3)

○等高線から地形を読む

1本の等高線は途中で途切れることはなく、必ず閉合します。
等高線の^{かん}間^{かく}隔が狭いところは傾斜がきつく、間隔が広いところは傾斜が緩やかです。



等高線からその土地の形状を読み取ることができます。

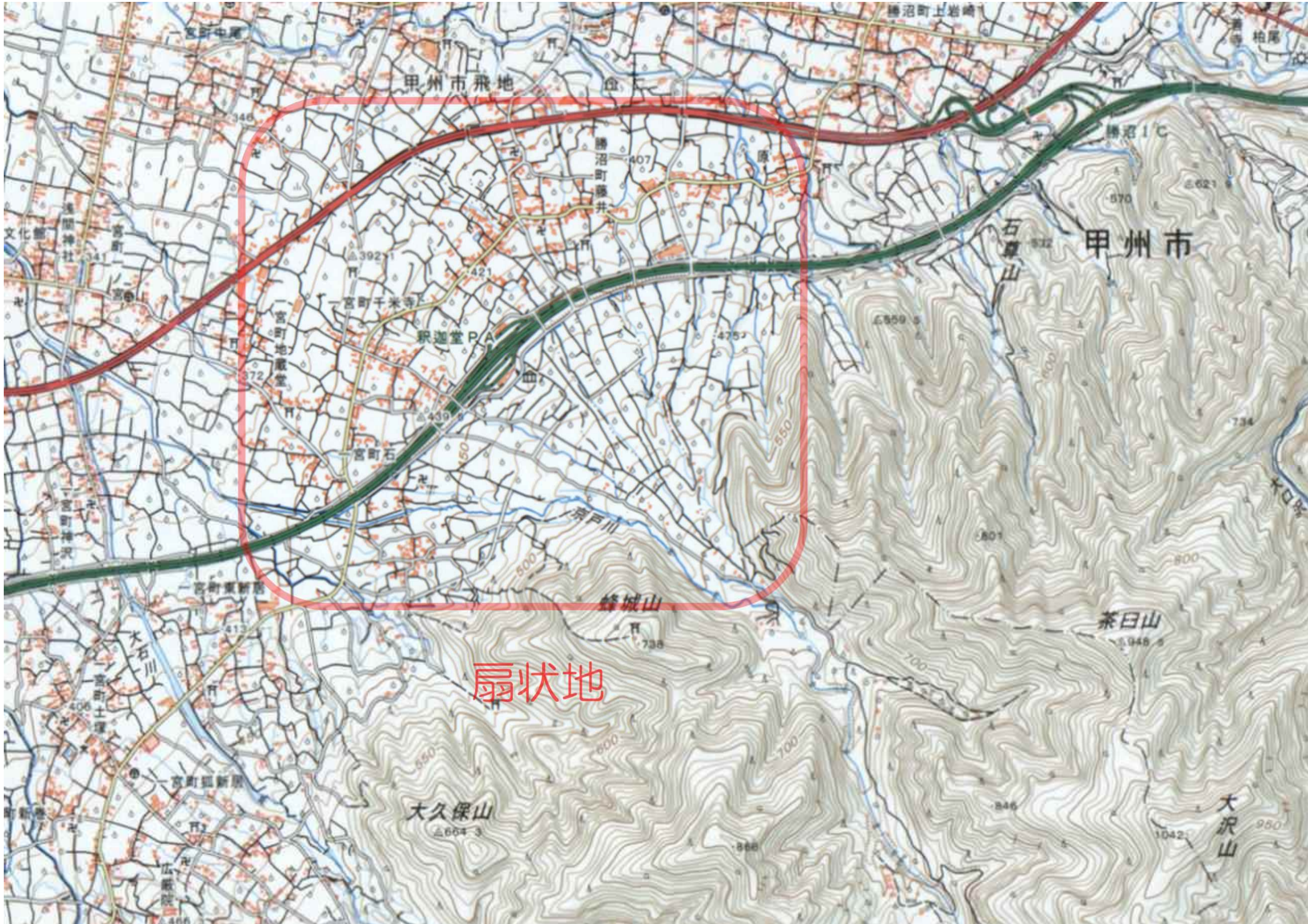


(地理院地図3D)

等高線から、急峻な山であるか、なだらかな高原であるかが分かります。
また、その土地の成り立ちを知ることも可能です。



火山の活動による地形



河川的作用による地形